

銀賞

大切な水

野上 花

小郡市立御原小学校

みなさんは、よごれた水がきれいになる仕組みを知っていますか。わたしたちは、一学期、福童浄化センターに見学に行きました。そこで学んだ、よごれた水がきれいになる仕組みについて説明します。まず、トイレやお風呂、キッチンなどそれぞれの家で使われた水は、下水道管を通って浄化センターへ集まってきます。

はじめに、ちん砂池というところで大きなごみや石、砂などをしずめて取りのぞきます。

次に、最初ちんでん池で、細かいよごれをゆっくりゆっくり流してしずめます。

その次は、反応タンクです。ここでは、び生物をまぜます。そして、空気を入れてかきまぜます。すると、び生物がすごく小さな汚れを食べてくれるのです。

汚れを食べて重くなったび生物をしずませるところが、最終ちんでん池です。

わたしたちは、見学に行ったとき、しずんだ汚泥をかわかしだものにおいがかせてもらいました。みなさんは、どんなにおいだったと思いますか。想ぞう以上にとでもくさくて、わたしは、たおれそうになりました。生ごみのおいにていました。

最終ちんでん池まで行った水は、最後に消どくせつびで消どくされ、海や川に流されます。

よごれた水がきれいになる仕組みは分かりましたか。

それでは次に、よごれを食べてくれるび生物をしようかいしたいと思います。なぜかという、見学に行つて初めてそんなび生物がいることを知ったからです。実さいに、けんび鏡で見せてもらつてきょうみをもちました。

主なび生物は、フトヒゲムシ、アメーバ、クマムシ、カルケシウム、細きん類です。その中でもクマムシは、百五十度の高温でも、マイナス二百七十度の低温でもたえることができるそうです。また、体の水分を〇・〇五パーセントまでへらしても生きることができそうです。最強です。こんなび生物が、わたしたちのために働いてくれていたなんておどろきました。び生物のおかげで、よごれた水がきれいになっていくのです。

最後に、みなさんに伝えたいことがあります。

一つ目は、水を出しっぱなしにしないことです。じゃ口はこまめに閉めて、水を大切に使いましょう。

二つ目は、食べ残しなどははい水口に流さないようにしましょう。よごれが多すぎると、び生物たちが食べきれなくなってしまう。わたしも、食べ残しをせすにきちんと食べて、なるべく水をよごさないよう気をつけます。

みんなで大事な水を守っていきましょう。